

# 里山ってどんなところ？

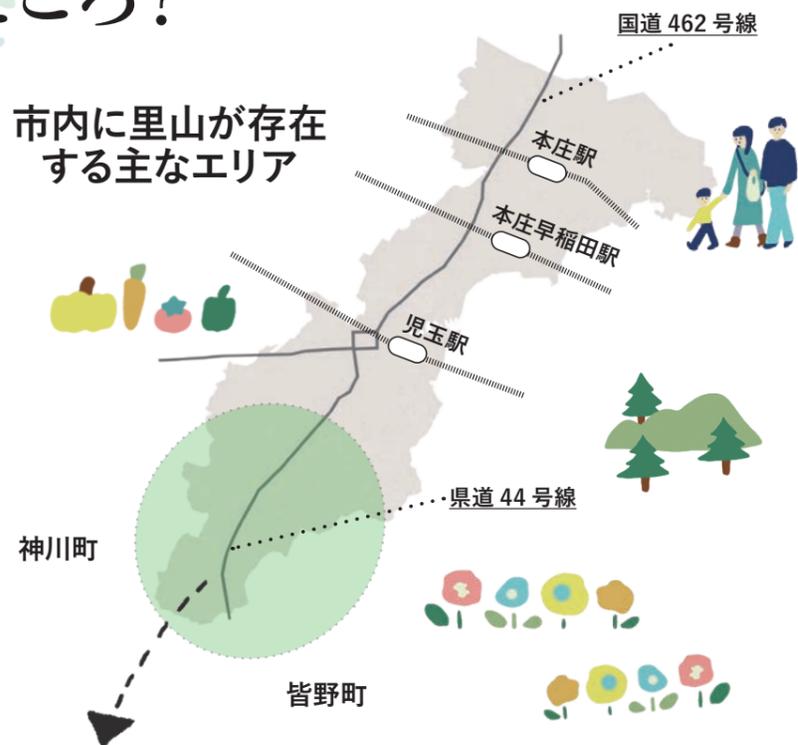
里山について、環境省のホームページでは「自然と都市との間に位置し、集落とそれを取り巻く森林や農地、ため池、草原等で構成される地域。農業や林業等を含めた里山周辺に住む人々の営みにより形成され今日まで維持されてきた」とされています。

## 里山の位置関係



中山間地域とも呼称されるこの里山では、実は日本全体で見れば耕地面積の約4割を占め、農業生産の場としてだけでなく、「資源生産・生物多様性の保全・文化継承・心身のリフレッシュ」など、さまざまな機能があります。

## 市内に里山が存在する主なエリア



## 児玉南部エリア



県道44号線沿いを中心に広がる自然豊かな環境が特徴の本泉地区。地場産品を使った手打ちそばとてんぷらを楽しめるお店や、自然を全身で感じられるハイキングコース等、自然に包まれながらリフレッシュするのに最適です。



文化財が多く存在し、自然と歴史が調和した小平地区。日本三大さざえ堂のひとつである成身院百体観音堂を中心に高窓の里等、里山の原風景を楽しめる場所もあり、地域に息づく伝統や文化を感じることができます。

市内にある里山が持つ魅力や大切さ。それを知るためには里山で暮らし、関わる人たちの営みを知る必要があります。

ページをめくり、一緒に話を聞いてみましょう。

人と自然の間に存在する里山の移り変わり  
はるか昔から人の暮らしとともにあった里山。しかし、近代化とともに社会全体が大量生産・大量消費の時代へ移り変わり、人びとの生活のよりどころが里山から街へ移りゆく中で、そのあり方も少しずつ変化していききました。  
変わらないのは、どれだけ離れたとしても、人と自然はその関わり合いの中で、共生しているということ。  
人と自然の中間地点にあり続ける今の里山は、人にとって、また自然にとって、どのような場所となっているのでしょうか。

# 特集

# 私たちの

# 里山



「里山」って知ってる？  
皆さんは、里山と聞くと、どのような場所を思い浮かべますか？  
「わらぶき屋根と田園風景」「自然と近いところ」など人によってさまざまなイメージが思い浮かぶと思います。  
今回は、市内にある里山の持つ「魅力や大切な役割」について、より理解を深めてもらいたいとの思いから、実際に里山を訪ね、住み・関わる人たちにお話を伺いました。  
そこから浮かび上がったのは、里山に広がるあふれんばかりの魅力、そしてこの地域に関わる人たちの営みが、私たちの暮らしに緩やかに、しかし確実に関わる姿でした。  
人と自然の距離が開きつつある「今」。その間に存在する里山の魅力や大切さについて、特集をおとして一緒に知り、考え、そして実際に足を運んでみませんか。

写真：花桃と水仙の丘（児玉町太駄）